

JOSKAS ニュースレター

発行：一般社団法人 日本関節鏡・膝・スポーツ整形外科学会 (JOSKAS)

URL:<http://www.joskas.jp/>

〒103-0027 東京都中央区日本橋3-10-5 オンワードパークビルディング(株式会社コングレ内) TEL:03-3510-3746 FAX:03-3510-3748

理事長挨拶

広島大学医学部 整形外科 教授 安達 伸生



2020年はCOVID-19の世界的な流行と蔓延により私たちの生活も大きく変化せざるを得ませんでした。多くのJOSKAS会員の皆様も通常の診療や研究が大きく制限され、大変な一年を過ごされたことと存じます。この理事長挨拶を書いている2月初旬においても、緊急事態宣言が10都府県で継続されており、今後の感染状況の見通しも不安定ではあります。ワクチン接種の効果に期待しつつも、まだまだ不安は隠せません。

さて、昨年は弘前大学整形外科石橋恭之教授会長のもと、2020年12月17日から19日まで神戸の地で第12回JOSKASと第46回日本整形外科学会(JOSSM)の合同学会が開催されました。COVID-19のため今回のJOSKAS・JOSSM合同学会も開催時期と開催地が変更になりました。また、延期した12月時点でも感染終息には程遠く、どのような学会形式にするかが大きな問題となりました。多くの学会や研究会が中止やオンライン開催となる中、理事会でも十分に協議した結果、感染対策を十分に行いつつハイブリッド形式とすることが決まりました。その後学会参加者からの感染報告もなく、大変安堵しております。このような困難な状況にもかかわらず、素晴らしいプログラムを企画していただきました学会長の石橋教授ならびに教室、同門の先生方にJOSKAS会員を代表して敬意を表するとともに改めて心より感謝申し上げます。海

外からの演者の先生方の多くにはオンラインで学会に参加いただき、ディスカッションもできました。今回のハイブリッド形式は今後の学会のあり方に大きな示唆を与えてもらったように感じます。

石橋会長は第12回JOSKAS・JOSSM合同学会のテーマを「2020 その先へ - 調和と発展 - (Beyond 2020 - Harmony and Progress -)」とされ、未来に向けてJOSKASとJOSSMが歩み寄り、発展的な変化を遂げていこうという強い決意を表されました。昨年来、会員の皆様にはアンケート調査を行い、ご意見を伺ったところですが、JOSKAS、JOSSM両学会社員総会で今後スポーツ整形外科に関する学会を一本化すること、またJOSKAS社員総会では加えて膝関節学会の設立に向けて進めていくことが正式に決まりました。今後はより良い体制づくりに向けて学会設立委員会で検討、討議しつつ、会員の皆様と十分に情報共有してまいります。2022年まではJOSKAS、JOSSMの合同学会が決定しております。今後ともご支援、ご協力のほどよろしくお願いいたします。

COVID-19の先行きもまだまだ不透明であり、私たちの診療や研究、学会活動なども制限が続くそうです。JOSKAS会員の皆様に於かれましては、くれぐれもご自愛いただき、新年度が大きな飛躍の年となりますよう祈念いたします。

第12回 日本関節鏡・膝・スポーツ整形外科学会 閉会御礼の言葉

第12回 日本関節鏡・膝・スポーツ整形外科学会会長
弘前大学大学院医学研究科 整形外科 教授 石橋 恭之



第12回 日本関節鏡・膝・スポーツ整形外科学会 (JOSKAS) を、令和2年12月17日～19日の3日間、日本整形外科学会スポーツ医学学会学術集会 (JOSSM) との合同学会として神戸国際会議場で開催いたしました。Go to travel 後の新型コロナウイルス感染の再拡大もあり、学会開催の判断は最後まで迷いましたが、当初の予定通りハイブリッド形式で開催しました。予想を超える多くの皆様にご参加いただき、無事会を終えることができました事を、心より御礼申し上げます。

本学会には最終的に3058名の皆様（医師：2069名、初期研修医：13名、メディカルスタッフ：528名、学部学生：24名、その他）に参加登録いただき、765名の先生方には現地に参加頂き活発な討論を行っていただきました。会場では演者や聴衆の熱気も伝わり、face to faceの学会の良さを改めて感じました。心配されたWEBでの海外演者との国際シンポジウムも概ね滞りなく行われていたと思います。その一方、予算や人員の都合で全ての会場をLive配信できなかったことなどが反省点の一つであると感じました。

学会テーマとして『2020 その先へ -調和と発展-』を掲げさせて頂きました。企画に当たっては、JOSKAS・JOSSMそれぞれの学会の特徴をなくさ

ないように配慮しましたが、その目的（方向性）はある程度示せたのではないかと考えております。学会には整形外科医に加え、理学療法士やトレーナーの先生方にも多数ご参加いただき、運動器の治療からリハビリテーション、そして予防まで、十分ディスカッションできたのではないかと思います。学会最終日に企画したJOSKASセミナーやJOSSMセミナーでは、直前にキャンセルがでたものの、ほぼ予定通りの人数で開催することができました。

学会に先立って行われたJOSKAS、JOSSMそれぞれの評議員会では、整形外科領域のスポーツ医学を一つにまとめていくことも決定されました。どのような学会にしていくかはこれからの議論となりますが、未来を担う若手の先生方に素晴らしい会を作って行ってほしいと思います。

一年も経てば収束すると思われた新型コロナウイルス感染症ですが、まだまだ収まる気配がありません。Withコロナ、afterコロナは今後も続いて行くものと思われれます。我々にとって初めての学会形式であり、多々ご不便をお掛けしたかと思いますが、今後の学会開催の参考になれば幸いです。最後に、学会の開催や運営に対しご支援頂きました製薬会社・医療器械会社の皆様、また会員ならびにご参加いただきました皆様方のご健勝とご発展をお祈り申し上げます。



12th JOSKAS

～受賞者のことば～

ベスト口演賞

前十字靭帯損傷膝における Ramp lesion の発生頻度と臨床的特徴

九州労災病院 スポーツ整形外科
田代泰隆



この度は栄誉あるベスト口演賞を受賞し、大変光栄に思います。本研究では、ACL 損傷に合併した内側半月板 Ramp lesion を経腓関節窩より観察した結果、連続 103 例中 10 例 (9.7%) に通常の前外側鏡視では確認できない Ramp lesion を認め、合併症例の特徴として、受傷から手術までの待機期間が長く、前方不安定性が増大していることを報告しました。関係者の皆様と本研究に関わられた同僚の先生方に深く感謝申し上げます。

ベスト口演賞

肘頭疲労骨折における骨折線のマッピング

岡山大学大学院 医歯薬学総合研究科 整形外科
根津智史



この度は、大変栄誉ある素晴らしい賞を授与頂き誠にありがとうございます。また選考にご尽力頂いた先生方に深謝致します。この研究は、野球選手に生じる肘頭疲労骨折の骨折線をマッピングすることで、正側面像で持つ様々な特徴を分析したものです。今後も本骨折への理解を深め、日々研鑽していきたく思います。いつもご指導下さっている尾崎敏文教授、島村安則先生、また同門の先生方に、この場を借りて厚く御礼申し上げます。

ベストミニオーラル賞

前十字靭帯再建術後の Single Hop Jump (SHJ) 値に影響を及ぼす因子について

相生会 福岡みらい病院 リハビリテーション科
小林凌也



この度は大変名誉ある賞を授与頂き、大変ありがたく思います。本研究は ACL 再建術後の Single Hop Jump 値に影響する因子を検討したものです。今後も ACL 再建術後リハビリテーションの知見を深め再断裂予防に努めたいと思います。いつも研究や臨床でご指導・ご協力頂いている小佐野圭先生、秋山武徳先生、二本亮先生、またご選考頂いた先生方にこの場を借りて深く感謝致します。

ベストポスター賞

アメリカンフットボール選手におけるハムストリング肉ばなれのリスク因子の解析 — UTSSI スポーツ損傷予防プロジェクト 第 2 報 —

東京大学スポーツ先端科学連携研究機構
水谷有里



この度はベストポスター賞の栄誉を賜り、誠に光栄に存じます。本研究は前向き調査によってハムストリング肉ばなれのリスクは筋タイトネスが高いこと、H/Q が低いことであると明らかにしました。発表にあたりご指導いただきました武富修治先生をはじめ、休日を返上してボランティアで研究に協力して下さいました仲間たちに、この場をお借りして深謝申し上げます。これからも肉ばなれ離れせず、研鑽して参りますので宜しくお願い致します。

会告

第 13 回 (2021 年) JOSKAS 日本関節鏡・膝・スポーツ整形外科 科学会

会 期：2021 年 6 月 17 日 (木)～19 日 (土)
会 場：札幌コンベンションセンター
会 長：出家 正隆 (愛知医科大学 整形外科科学講座)
U R L : <http://www.congre.co.jp/joskas-jossm2021/index.html>
〈合同開催〉第 47 回日本整形外科スポーツ医学会学術集会
会 長：稲垣 克記 (昭和大学医学部 整形外科科学講座)

第 14 回 (2022 年) JOSKAS 日本関節鏡・膝・スポーツ整形外科 科学会

会 期：2022 年 6 月 16 日 (木)～18 日 (土)
会 場：札幌コンベンションセンター
会 長：遠山 晴一 (北海道大学大学院 保健科学研究院)
〈合同開催〉第 48 回日本整形外科スポーツ医学会学術集会
会 長：岩崎 倫政 (北海道大学大学院 整形外科科学教室)

編集後記

神戸大学医学部附属病院 整形外科 松下 雄彦

2021 年を迎え、新型コロナウイルス感染症が国内で確認されてから早一年。あっという間に時は過ぎ去ってしまいました。新型コロナウイルス感染症が蔓延し、未だ先行きの見えない日々が続いており、何かと暗い気持ちになりがちな毎日を過ごされている方も多いのではないかと思います。

さて、昨年 12 月に第 12 回 JOSASK が JOSSM との合同で石橋恭之学会会長の下に hybrid 形式で無事開催されましたが、その準備には大変なご苦労があったのではないかと存じます。神戸で開催して頂いたこともあり、私は幸い現地参加をさせて頂きましたが、会場では思ったより多くの先生方にお会いすることができました。その中で感じたことは、やはり、直接お会いできて

お話させて頂けることの素晴らしさでした。これまでに当たり前に行えていた学会での活発な討論は、実は簡単に経験できない貴重なことなのだと改めて実感させられました。第 13 回 JOSAKS も 6 月 17-19 日に札幌にて開催予定であり、気づいたらもう数か月先になっています。その頃には感染症が少しでも落ち着いて、出来るだけ多くの会員の皆様とお会いできるのを楽しみにしたいと思います。

